

研究タイトル：

カント哲学の研究



氏名：	嶋崎 太一 / Taichi Shimazaki	E-mail：	t_shimazaki@nagano-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	日本哲学会、日本倫理学会、日本カント協会、カント研究会		
キーワード：	カント哲学、自然哲学		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の倫理について ・ドイツ語文献の読解について 		

研究内容： カント『オプス・ポストウムム』における自然科学論

カントの遺稿『オプス・ポストウムム』は、「自然科学の形而上学的原理から物理学への移行」を主題として執筆が進められたものの、未完成のまま膨大な草稿群として遺されることになった。カント自身はこれを「主著」として公刊する意図を持っていたことがうかがえるが、アカデミー版第 21 巻・22 巻に収められたこの草稿群には、論述が途絶した箇所や文章として不完全な箇所も少なくない。また、短く見積もっても 7 年に及ぶ執筆過程の中で、『オプス・ポストウムム』は大きく主題を転換させている。この草稿群を初めて本格的に整理したアディケスの研究(1920 年)によれば、『オプス・ポストウムム』は、1800 年に執筆されたと推定される第 VII 束を境として初期の自然科学的・自然哲学的な部分と後期の形而上学的・認識論的な部分とに分けることができる。

さらに細かく『オプス・ポストウムム』の構成を分析すると、「移行」という課題の出発点となる最初期の「八折判草稿」(1796-97 年)のあと、「物質の運動力の基礎体系(Elementarsystem)」という名の下で物質やその運動力を量・質・関係・様相という『純粹理性批判』で開陳されたカテゴリーに基づいた体系化が繰り返し試みられる中期の草稿群(97 年 6 月～99 年 5 月)が続く。さらに新たな展開がみられるのは、エーテル(熱素)が経験の可能性の条件として論証される 1799 年 5 月～8 月の「移行 1-14」草稿である。その上で 1799 年 8 月～1800 年 4 月の第 X、XI 束における自己触発論が展開され、それ以降の後期草稿群へとつながることになる。

本研究は、『オプス・ポストウムム』が形而上学へと歩みを進める前の中期草稿群における「物質の運動力の基礎体系」に注目し、カントは最晩年にどのような自然科学論の構築を意図していたのかという問いに回答することを課題とする。

『オプス・ポストウムム』の自然科学論はこれまであまり研究されてこなかったが、カントが生涯を通して自然の動力学的な説明に取り組んできた事実を踏まえるならば、カント最晩年の自然科学論を究明することは重要な課題であると言える。

本研究では特に、カントが「移行」の学として名付けている「一般動力学」の内実、批判期の自然科学論との異同、熱素概念の受容を含めた当時の科学的状況との関係などを探る。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

Study on Kant's Philosophy



Name	Taichi Shimazaki	E-mail	t_shimazaki@nagano-nct.ac.jp
Status	Lecturer		
Affiliations	The Philosophical Association of Japan, The Japanese Society for Ethics. Japanese Kant-Society, Japanese Study Group of Kant		
Keywords	Kant's philosophy, Philosophy of Nature		
Technical Support Skills	<ul style="list-style-type: none"> • Engineering ethics • Reading German text 		

Research Contents

Kant's Theory of Natural Science in his *Opus postumum*

The *Opus postumum* is Kant's unpublished work, whose theme is "Transition (*Übergang*) from Metaphysical Foundations of Natural Science to Physics". This work consists of lots of unfinished manuscripts. According to E. Adickes' study (1920), it is divided into two groups. The first part is the natural scientific and philosophical part, which was written in 1796-1799. Another part is the epistemological and metaphysical one written after 1800.

More exactly, the starting stage of this work is the so-called "*Oktaventwurf*" (1796/97). And following stage is the "Elementary System of the Moving Forces of Matter" (June 1797-May 1799). This is the investigation to systematize the moving forces of matter and its character under the table of category: Quantity, Quality, Relation and Modality.

The purpose of this study is to examine how Kant's system of natural philosophy develops after post-Critical era by focusing on the "Elementary System" in his *Opus postumum*.

Although previous studies seldom notice the natural scientific part of the *Opus postumum*, I believe that it is important to clarify the structure of the natural science by "late-Kant" because he continued to undertake the dynamical explanation of the nature throughout his career.

Available Facilities and Equipment
